

でいる所、いろいろあるわけですが。そういう所を鯉はどんな風に通る抜けていくのか、ということを知ったわけです。

一番特色のあるのは、鯉は水の底を主に歩くという点とですね。鯉の口は下を向いているんですよ。魚の口は上を向いているのと下を向いているのとあるんですが、鯉は水の底に沈んでいる餌を食べ易いように下を向いているんです。上口びるがこりのびてね。人間みたいに真正面は向いていませんよ。釣り人は矢張りそんな習性を考えなくちゃいけない。

鯉に季節はないとよく言いますが、矢張りありますね。春が一番食欲旺盛で、夏は反対に食欲不振、秋が少しよくて、冬はあまり歩かなくて静かに同じ所にいますね。それから、大きい鯉と小さい鯉では又違えますね。小さい鯉は人間の子供と同じように、あちこちひらひら活発に動きまわっていますけど、大きいのは、ゆったりとしていて、そうむやみと動きまわらない。縄張りがあるわけじゃないらしいけど、歩く場所は或る程度決まっているらしいですね。

鯉の寿命はかなり長くて、この間新潟に行つて見た錦鯉は、百三十年も生きていたといいましたよ。

桜川はずいぶん歩きましたね。何しろ川の底の状態を

知らなければならぬ。川が流れていて、水の底に古い枝のよなものがあるとすると、そうすると上流から流れてくる水は枝の回りでりずを巻いて枝の後側はすり鉢のように掘れてくるわけですが。そういう所に虫だのその他餌になるものがたまり易い。そこへ鯉なんか餌を求めて集まってくると私は考えるんですが、水の表面に見えてはいる枝はいいけれども、見えない枝がたくさんある。それを捜すわけです。私はのべ竿の針をはずしておもりだけにして、それを川の中へ降り込んで、どちらかへ引っぱってみる。そうすると川の底に何かがあれば手応えでわかる。それがどんな形をしているのかなどを知るためには、二度、三度と放り込んで確かめてみるわけです。だから桜川は河口の辺から、坂田の堰あたりまでは大体水底の状態は解つてました。ここへ入れるとどこに枝があつて、どれ位の鯉が釣れる、という事ですね。しかし私が釣っていると、他の人が集つて来るから、毎日そこで釣るわけにはいかない。それで一つ面白い話があるんです。

土浦橋の上流で、道祖神の下で川が屈曲している所がありますね。あの曲りの突き当りの所は、鯉の泳ぐかけあがりとも言えるような斜面になっているわけです。下は砂地で、そして、その中に枝が倒れている所がある